

母親代表者活動報告

お母さんだより

第2号

昨年3月、「お母さんだより」第1号に引き続き第2号を発行いたします。県内各地での「母親委員会」、「母親部会」等の機会に、子どもたちの健全育成のために生かしていただければ幸いです。

福島市での活動

福島市小中学校PTA連合会家庭教育推進委員会は、平成21年度の研修テーマを「食育」として、県北教育事務所指導主事の長嶺恵美子先生に講話をいただきました。「食育」として、「人のためになる食事」であり、「食事」という文字を分解すると、「人」に「食」と「育」があり、食事は人の心も体も共に育ててくれるもの。しかも、その食事をどのような環境で、どのような食材で作られているかによって心も体も形成が違ってきます。子どもといっしょに調理することを通して、家族のコミュニケーションや絆が生まれます。子どもといっしょに調理することを通して、生きていくためのルールや、協力し合うことの調和を学び、調理することを通して、苦労や楽しさ、さらに食材への敬意や感謝の心を養うことができます。日々の食事を子どもと共に関わりあえる環境を作り、会話をきっかけにして、食事を作っていきます。」との声も聞かれ、とても充実した研修会でした。毎年テーマを決め、みんなで考え、何かに気づく目的を持った活動をしています。

(県北地区母親代表理事 八島厚子)

郡山市での活動

郡山市PTA連合会では、母親代表者懇談会を昨年7月に開催しました。「PTAの必要性を柱とした、母親の役割について」と題し、各単P女性役員85名が参加、意見交換が行われました。受けることは、自身のキャリアアップにもなり、子どもたちの協力を得る機会として、親の心も苦しい。など、共通の悩みも聞かれました。全般的には、「情報交換は必要であり、もっと各校とのコミュニケーションを図り、子育ての悩みや各単Pの運営方法など、女性同士の話し合いがもたら嬉しい。」といった意向が多く出され、市P連として積極的に意見交換の場を作る取り組みが必要であると思われました。

(県中南地区母親代表理事 渡辺さゆり)

会津若松市での活動

会津若松市父母と教師の会連合会では、毎年市内の小中学校の母親代表が集まり、「母親部会」として活動しています。12年目の今年度は、62名が参加して、「コーチング講座」や「食育」の研修、「x Change」の開催など、7回の部会を行いました。止めて、自分が関わり方を変える「自分も相手も大切にコミュニケーション」を学びました。昨年度取り組んだ環境問題を踏まえ、「x Change (お金を介さない物の交換会)」を開催し、PTA会員や地域の方々にも参加いただきました。情報交換の場や子どもたちへの読み聞かせコーナーも準備しました。成長して着ることができなくなった子供服などを持ってきてもらい、気に入ったものがあれば無料で持ち帰ることができるこのイベントは、来年もぜひ開催してほしいと大好評でした。

(会津地区母親代表理事 加藤純子)

いわき市での活動

「しつけってなんだろう」のテーマで3年間取り組み、しめくくりとなる今年度は、市内7箇所を巡回して、親子で地域での食育、メディア、家庭教育に焦点を当ててセミナーを開催し、後半はバスセッションを行いました。6月のリーダーセミナーには、福島大学総合教育センター特任教授の森俊輔先生に「子どもがその心と向き合うために」と題し講演をいただきました。川部小学校体育館に、190名が参加、PTA会長にも多数参加いただき、父親の視点からも考えることができてきました。「現代の子どもたちは、いつもだれかにか愛されながら生きていっている。大人がそばにいて喜び共感している。」と先生が呼びかけ、後半のバスセッションでは、班ごとに男性の参加があり、実りある意見交換ができました。現代は、「個」の時代。個人主義、個室、個食など、個として権利を守りつつ、だれかから愛されたいと思う子どもたちと良い関係を築きたいなら、いつも子どもを見ていることが必要です。新しい時代の親は、温かい心、小さな口、大きな目、大きな耳でいつも子どもをそばにいたいと思います。

(浜地区母親代表理事 蛭田優子)

# 心に生きると書いて“性”

## 大切なこの問題をエイズを含めて考えてみませんか？

県PTAを代表して、平成21年3月、福島県エイズ対策推進協議会に参加しました。

「福島県におけるエイズ・性感染症の現状について」県保健福祉部医療看護課からの報告と県立医大の先生からのお話があり、HIV感染者、AIDS患者とともに日本は増加傾向にあり、福島県も同じく増加していて、特に福島では異性間性的接触による感染経路や若者への感染が大変懸念されるとのことでした。

性感染症は、若干減少の方向にありますが、依然として10代の感染者も多く、未熟な中で10代の性体験は問題を抱えています。

思春期の子どもたちに自分の行動を律する力「自己抑制力」を身に付けさせることは親の大きな役目でもあり、子どもの将来にとっても重要です。

また、エイズに関しては、増加しているにもかかわらず、話題に上がることも少なくなり、いつしか危機感が薄れているのではないかと懸念されます。エイズは感染してしまうと、現在、発症を抑える薬はありませんが、治すことはできません。

一度の過ちが一生涯を左右します。子どもたちの輝く未来を守るためにも、親として、社会人として、この問題に関心を寄せてください。

右の資料は、昨年、福島市立岳陽中学校で行った教養講座後、広報紙に掲載した内容です。ぜひ、皆様の学校でも積極的に取り組んでください。

なお、この件に関するご質問は、お気軽に氏家までご連絡ください。

(TEL/FAX 024-531-6189)

前母親代表理事 氏家京子

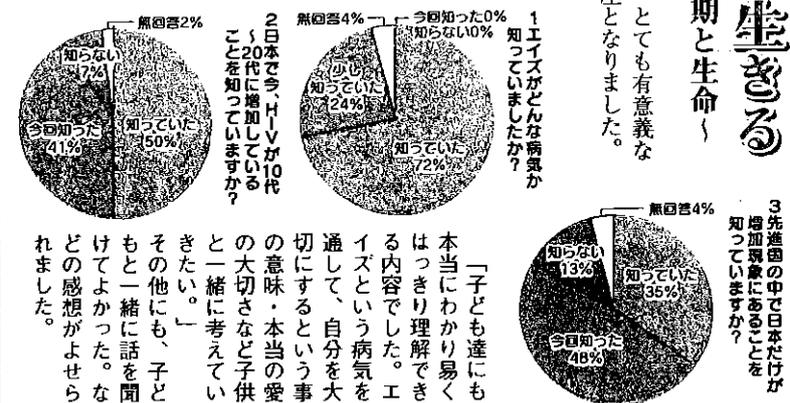
### エイズ時代に生きる

#### 親と子で考える思春期と生命

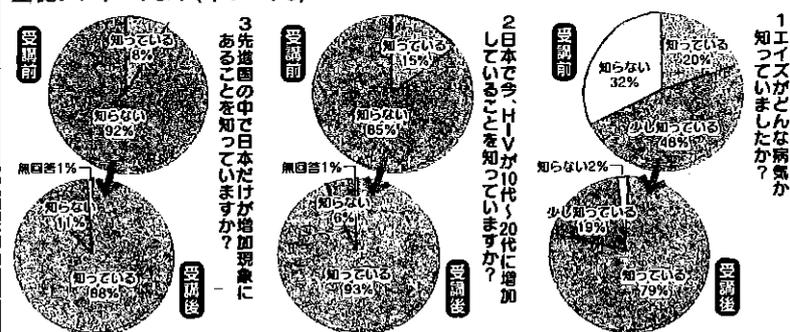
九月十六日、荒井敦子先生をお迎えして教養講座が行われました。今回は、エイズ問題が日本で十代の若者にも大変懸念されていることから、全校生徒とPTAが共に受講することになりました。

荒井先生のお話しは、エイズに対して正しい理解ができただけでなく、思春期の大切さや自己抑制力を身につけることの必要性なども語っていただきました。また、保護者向けの時間は、コミックやケイタイサイト、図書室にある問題の本のことも、今、子供たちがおかれている環境に対しても深く考えさせられる内容でした。親にとっても子供に

保護者アンケートより 回答数 44名



生徒アンケートより(中1〜中3) 受講前 425名 受講後 422名



#### — 女子 —

- ・エイズは名前を知っている程度で具体的にはよくわからなくて、自分には関係ないことだと思っていた。でも、誰にでもそういう可能性がある事を知って、恋愛についても慎重に考えるべきだと分かりました。
- ・自分の夢を実現させるために、自己抑制をきちんと身につけないといけないと思った。
- ・夢を持って、自分を大切にする事が大切だとよく分かりました。

#### — 男子 —

- ・エイズが10代〜20代に増加しているなんてことや、先進国で日本だけが増加しているなんて、まったく知りませんでした。
- ・やっていいこと、やって悪いことをしっかり区別をつけること。
- ・これからの自分の生き方を深く考えさせられる講習だった。

福島市立岳陽中学校広報紙「しゃくなげ」より